新技術情報提供システム
NETIS
NETIS登録番号KK-110028-A
国土交通省によって認定されている、民間企業等により開発された新技術に係る情報を、共有及び提供するためのデータベース。

APLAUDO CIELUSTER NEO

超高耐候超低汚染水性2液形無機塗料

アプラウドシェラスターNEO

夢が輝く街並みへ。

NIPPON PAINT CO.,LTD.

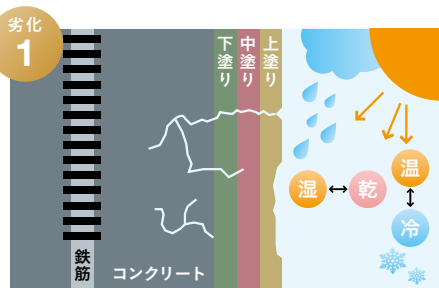
建物を保護するためには、躯体の劣化を防ぐことが必要となります。

コンクリートは、時間経過による温度変化や水分、CO_2、ムーブメントなどによってクラック(ひび割れ)が発生することで、内部の中性化が進行。さらに鉄筋までもが錆び、建物の構造耐力を低下させます。この劣化を防ぐためには上塗り塗料アプラウドシェラスターNEOと躯体を保護する能力が高い下・中塗り材が必要です。アプラウドシェラスターNEOはフッ素をしのぐ超耐候性を誇り、コンクリートの劣化抑制と建物の長寿命化を実現します。

建物の長寿命化を実現する

上塗り塗料		コンクリートを保護する能力が高い組み合わせの例
アプラウドシェラスターNEO	×	DANフィラーエポ

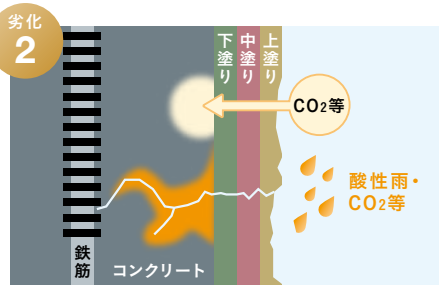
コンクリート劣化の仕組み

劣化 1

クラックの発生

1. 応力・ムーブメント
2. 乾燥収縮
3. 温度変化(日格差、年格差)
4. 水分の凍結による膨張

などの要因により、コンクリートにクラックが生じます。

〈クラックの拡大写真〉
〈壁面に生じたクラック〉

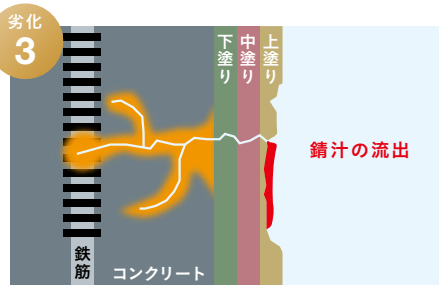
劣化 2

中性化の進行

躯体表面が水(酸性雨)や空気(CO_2等)に晒されることによって、コンクリートのアルカリ性が低下(中性化)します。クラックが発生していると躯体内部に水や空気が直接到達するため、中性化が促進されます。

〈クラック部分のコア抜き〉

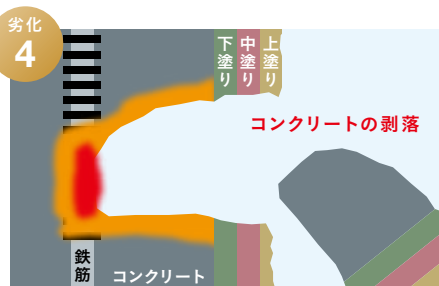
コア断面(内側)
白色部分中性化進行

<クラック部分は奥まで中性化している>

劣化 3

鉄筋の錆

中性化が進行すると、コンクリート内の鉄筋を酸化(錆)から守る力が失われていきます。中性化が鉄筋に到達すると、鉄筋の酸化が進み錆汁の流出などの現象が起き、美観を損なうことにつながります。

〈クラックから流出した錆汁〉

劣化 4

※本イラストはイメージです。

コンクリートの剥落等

鉄筋の酸化による腐食が促進されると、鉄筋の体積が膨張し、ひどいケースではコンクリートの剥落が起きたり、構造耐力の低下につながります。

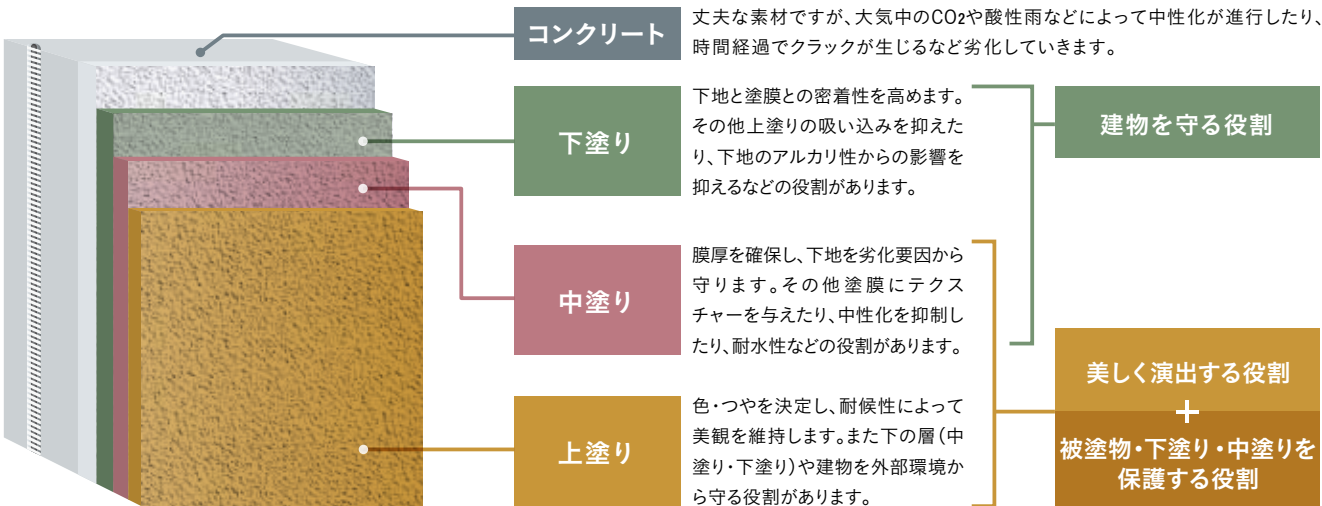
〈コンクリートの剥落〉

〈鉄筋爆裂の発生〉

シェラスターNEO」

国土交通省によって認定されている、民間企業等により開発された新技術に係る情報を、共有及び提供するためのデータベース。

塗料は、「美しさ」だけではなく、その美しさを「守る」という役割を果たします。

塗料は乾燥すると「塗膜」となり、建物を何層も覆うことで、劣化要因から建物を守っています。
下塗り・中塗り、上塗りには異なるそれぞれの役割があり、適切に組み合わせることで、それぞれの性能を十分に発揮します。

コンクリート素材に最適。保護性能の高い下・中塗り兼用塗料「DANフィラーエポ」

DANフィラーエポの特長

伸縮性を長期間に渡ってキープ

クラックの上で伸びることで、
塗膜表面にクラックが入らないように働きます。

クラックの上でゴムのように伸び、表面にクラックが入らないよう働きます。

※新設時は別途下塗りが必要です。詳細については別途当社「DANフィラーエポ」パンフレットをご覧ください。

製品名	アンダーフィラー弾性エクセル（1回塗り）	DANフィラーエポ（1回塗り）	DANフィラーエポ（2回塗り）
通称	微弾性フィラー	弾性エポキシ系フィラー	弾性エポキシ系フィラー
取得規格	JIS A 6909建築用仕上塗材 可とう形改修塗材E主材	JIS A 6909建築用仕上塗材 可とう形改修塗材E主材	JIS A 6909建築用仕上塗材 防水形複層塗材RE主材
クラック追従性	0.9mm	1.3mm	3.1mm
加熱試験後のクラック追従性※	0.3mm（初期の「約30%」にDOWN）	0.9mm（初期の「約70%」を維持！）	2.1mm（初期の「約70%」を維持！）
透湿性	約30g／m²・24h	約100g／m²・24h	約100g／m²・24h

※JISA6909法　加熱後の伸び試験に基づく社内試験データ

中性化の進行を抑制

「DANフィラーエポ」の中性化抑制機能によって、酸性雨やCO2によって進行する塗装面の経年劣化を抑制することができます。

当社 微弾性フィラー＋当社 水性アクリルシリコン樹脂塗料

DANフィラーエポ＋当社 水性アクリルシリコン樹脂塗料

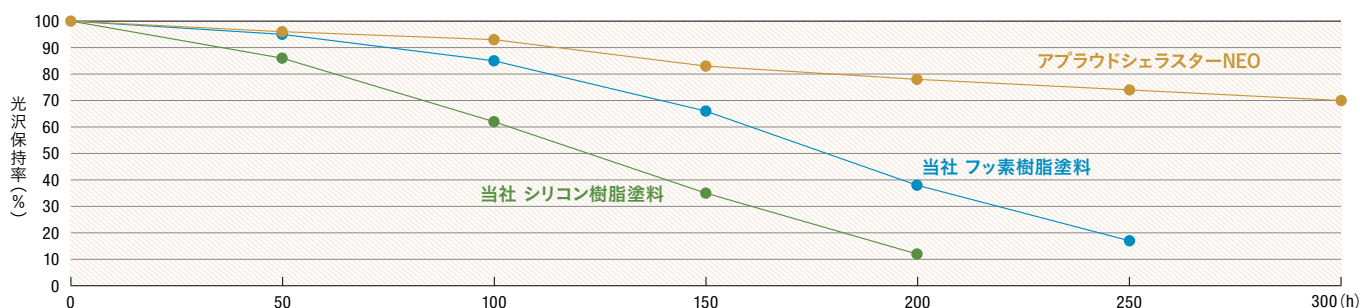
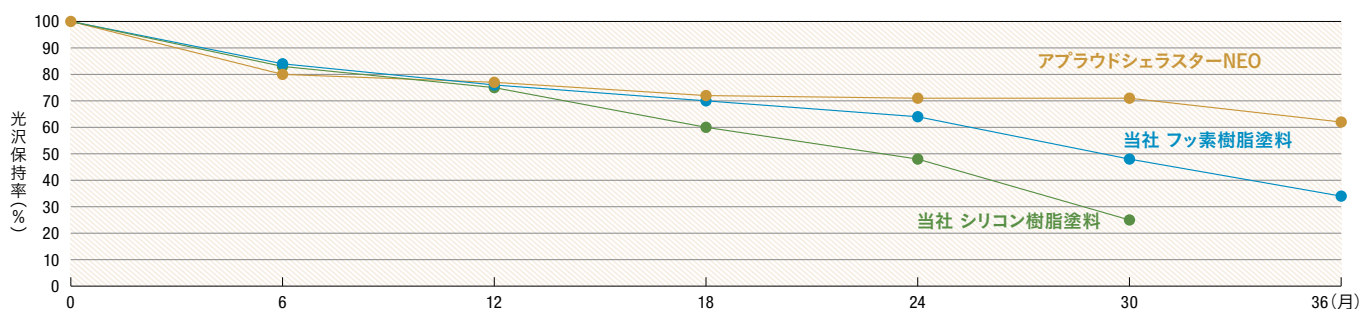
保護性能の高い下塗り・中塗りには、耐久性の高い「アプラウドシェラスターNEO」が最適。「アプラウドシェラスターNEO」によって、下塗り・中塗りを保護し、性能を十分に発揮します。

DETAIL OF APLAUDO CIELUSTER NEO

優れた耐候性を備え、美観を演出する無機有機

特長1 フッ素樹脂塗料を超える超高耐候性

アプラウドシェラスターNEOは、さまざまな試験によってその性能を示しています。
超促進耐候性試験・屋外暴露試験で、アプラウドシェラスターNEOは優れた耐久性を示しました。

【超促進耐候性試験】 試験方法/過酸化水素負荷型キセノン試験

【屋外暴露試験】 試験方法/日本工業規格JIS K 5600-7-6 試験場所/日本ペイント 宮古島ウェザリングセンター

※上記の数値は実測値であり、性能を保証するものではございません。

特長2 超低汚染性

アプラウドシェラスターNEOは「超低汚染性」（親水性機能）によって、
建物外壁に付着した汚れを雨とともに洗い流し、美観を維持することが可能です。

【防汚性試験】

試験方法/当社規格による雨だれ強制汚染試験
試験条件/基材：スレート・下塗り：水性カチオンシーラー透明・上塗り：各種上塗り（オーバーコート剤：クリスタコート）

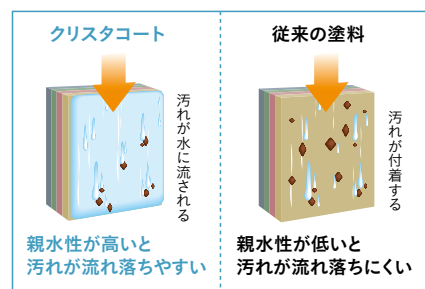
判定基準 ○：全く雨だれ汚染がない　○△：目立つ雨だれ汚染がない　△：やや目立つ雨だれ汚染がある
△×：目立つ雨だれ汚染がある（濃い雨だれ汚染がある）　×：沢山の強い雨だれ汚染がある

試験体	3ヵ月	6ヵ月	9ヵ月	12ヵ月
アプラウドシェラスターNEO	○	○△	△	△
アプラウドシェラスターNEO＋クリスタコート	○	○	○	○
一般低汚染形水性塗料	○△	△×	×	×

さらに、高レベルの低汚染を付与したい場合は

OPTION

アプラウドシェラスターNEOには「クリスタコート」をオーバーコートすることも可能。光触媒に匹敵する表面親水性で、高レベルの低汚染性を発揮します。

■塗膜と汚染物質のモデル図

◆光触媒に匹敵する表面親水性を呈し、当社最高レベルの低汚染性を発揮します。 ◆性能の発現に太陽光を必要としませんので、東西南北全ての面で安定した超低汚染性を発揮します。 ◆クリスタコートは塗装直後から優れた低汚染性を発現します。 ◆もちろん、弾性塗膜の上にもオーバーコート可能です。

詳細については当社「クリスタコート」カタログをご覧ください。

ハイブリッド塗料「アプラウドシェラスターNEO」

特長3 無機と有機のメリットを併せ持つ柔軟性

アプラウドシェラスターNEOは、有機塗料の高弾性と無機塗料の高耐久性を合わせ持つことで、高い柔軟性を発揮し、被塗物を守ることができます。

当社 従来無機塗料

アプラウドシェラスターNEO

従来無機塗料はDANエクセル中塗Jとの組み合わせ適性がないため、塗膜表面に割れが発生している。

【耐湿潤冷熱繰返し性試験】

試験方法/耐湿潤冷熱繰返し性試験 日本工業規格JIS K 5600-7-4
判定基準/10サイクル 試験片に、さび、割れ、はがれ、白化などを認めないときは、"湿潤冷熱繰返しに耐える"と判定する。

試験体	サイクル数	
	0(初期)	10
アプラウドシェラスターNEO (JIS A 6021建築用塗膜防水材 主材との組み合わせ)	異常なし	異常なし
当社 従来無機塗料 (JIS A 6021建築用塗膜防水材 主材との組み合わせ)	異常なし	割れ発生

※試験体塗装仕様(水性カチオンシーラー/DANエクセル中塗J/上塗り塗料)にて試験を実施。
※「異常なし」とは「湿潤冷熱繰返しに耐える」を意味します。

特長4 難燃性

無機のメリットを持つため、アプラウドシェラスターNEOは、燃焼実験・発熱性試験においても優れた難燃性を有しています。

トーチバナーで5秒間燃焼した様子(約1700℃)

写真左:アプラウドシェラスターNEOを塗装した試験体
写真右:当社一般水性塗料

【発熱性試験】

防火材料認定 NM-8585 QM-9816 RM-9364

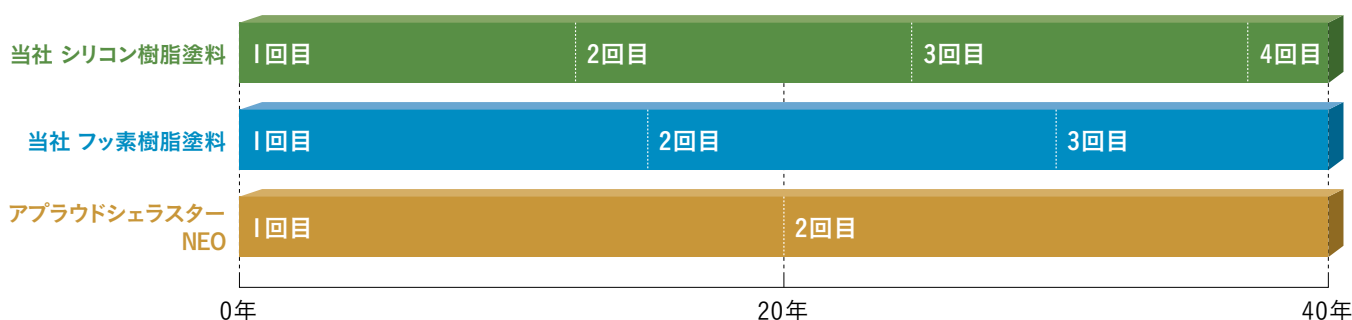
試験方法/ISO5660 コーンカロリーメータ 試験条件/基材:石こうボード(厚さ12.5mm 不燃第1027号)・下塗り:水性カチオンシーラー透明・中塗り:アプラウドシェラスターNEO・上塗り:アプラウドシェラスターNEO 加熱時間:20分間 判定基準/①総発熱料が8MJ/㎡を越えない。200KW/㎡を越える発熱量が10秒を越えて継続しない。②防火上有害な変形・溶融・き裂を生じないこと。(試験体裏面に達するき裂、貫通孔等を生じない。)

	試験体
総発熱量(MJ/m2)	6.1
200KW/m2を越える時間(秒)	0
防火上有害な変形・溶融・き裂など	き裂、貫通孔などを生じない

特長5 超高耐候性により、塗り替え周期を延ばすことが可能

アプラウドシェラスターNEOは超高耐候性で、水性シリコンや水性フッ素などの従来塗料と比較して、その性能が大きく向上しているため、わずらわしい塗り替え工事の周期を延ばすことができます。ロングライフサイクルにより、塗り替えの回数を削減し、利用者のさまざまな負担を軽減することに貢献します。

40年における塗り替え回数

塗り替え周期は、シリコン樹脂塗料13年、フッ素樹脂塗料15年、シェラスターNEOを20年として想定(社内基準による)

40年の期間中、アプラウドシェラスターNEOの塗り替え回数は、わずか2回

※塗り替え周期は弊社計算値であり、年数を保証するものではありません。

DETAIL OF
APLAUDO
CIELUSTER NEO

「アプラウドシェラスターNEO」塗装仕様書・

塗装仕様 改修の場合

コンクリート・モルタル面 平滑/なみがた仕上げ（シーラーレス塗り替え仕様・JIS A 6909可とう形RE主材との組み合わせ）

工程		塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修工事		下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて塗装工事前に実施する。						
下地調整		活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。 ゴミ、砂塵、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
中塗り（下塗り）	平滑	ニッペDANフィラーエポ	1	0.40〜0.80	4時間以上	水道水	3〜6	ウールローラー
	なみがた	ニッペDANフィラーエポ	1	0.80〜1.30	4時間以上	水道水	0〜3	砂骨ローラー
上塗り		アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

コンクリート・モルタル面 なみがた仕上げ（シーラーレス塗り替え高防水仕様・JIS A 6909防水形RE主材との組み合わせ）

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修工事	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて塗装工事前に実施する。						
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。 ゴミ、砂塵、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
中塗り1（下塗り）	ニッペDANフィラーエポ	1	0.80〜1.30	4時間以上	水道水	0〜3	砂骨ローラー
中塗り2	ニッペDANフィラーエポ	1	0.80〜1.30	16時間以上	水道水	0〜3	砂骨ローラー
上塗り	アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

アルミカーテンウォール・一般鉄部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修工事	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて塗装工事前に実施する。						
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。さびは、電動工具やサンドペーパー、研磨布などを用いて除去清掃する。						
（補修塗り）	ニッペハイポンファインプライマーII	（1）	0.16〜0.18	4時間以上7日以内※1	塗料用シンナーA	0〜10 0〜5	はけ・ウールローラー エアレススプレー
下塗り	ニッペハイポンファインプライマーII	1	0.16〜0.18	4時間以上7日以内※1	塗料用シンナーA	0〜10 0〜5	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。（縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります）※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。
※塗り替えの場合で下地がぜい弱な場合や吸込みが大きい場合、または新設塗装工事の場合には、シーラーを下塗りしてください。
※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している個所を塗装する場合、入念なケレン後、下塗り塗料（さび止め塗料）で部分補修をしてから下塗りしてください。
※1 夏場（高温下）では、硬化反応が著しく速まるため、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、上塗りとの密着性が悪くなります。その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

オプション 超低汚染コーティング（当社最高レベルの超低汚染性）

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間			希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
各塗装仕様に従い上塗り塗装完了後、下記の塗り重ね乾燥時間をあけてオーバーコート塗装をおこなう。									
				23℃	16℃	5℃			
オーバーコート	クリスタコート	1	0.04〜0.08	16時間以上	40時間以上	64時間以上	—	—	はけ・ローラー・エアスプレー

※左記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。（縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります）

※施工上の注意事項については、当社「クリスタコート」カタログをご参照ください。

塗装基準

塗装仕様 新設の場合

コンクリート・モルタル面 弾性凹凸仕上げ(JIS A 6909防水形E主材との組み合わせ)

工程		塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整		ごみ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り		ニッペ水性カチオンシーラー	1〜2	0.10〜0.16	4時間以上	無希釈	——	はけ・ウールローラー
				0.12〜0.16				エアレススプレー
中塗り	ベース塗り	ニッペDANタイル中塗	1	1.40〜1.80	4時間以上	水道水	5〜8	吹付け
	模様吹き	ニッペDANタイル中塗	1	0.8〜1.20	16時間以上	水道水	1〜3	吹付け
上塗り		アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

コンクリート・モルタル面 高弾性凹凸仕上げ(JIS A 6021建築用塗膜防水材 主材との組み合わせ)

工程		塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整		ごみ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り		ニッペ水性カチオンシーラー	1〜2	0.10〜0.16	4時間以上	無希釈	——	はけ・ウールローラー
				0.12〜0.16				エアレススプレー
中塗り	ベース塗り	DANエクセル中塗J	1	1.70〜2.10	4時間以上	水道水	4〜7	吹付け
	模様吹き	DANエクセル中塗J	1	0.60〜1.00	16時間以上	水道水	0〜2	吹付け
上塗り		アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

一般鉄部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整	電動工具を主体とし、ISO St3まで除錆する。溶接部の著しい凸部は、グラインダーで平滑にしてから電動工具で除錆する。						
下塗り	ニッペハイポンファインプライマーII	1	0.16〜0.18	4時間以上7日以内※1	塗料用シンナーA	0〜10	はけ・ウールローラー
						0〜5	エアレススプレー
上塗り	アプラウドシェラスターNEO	2	0.14〜0.18	4時間以上	水道水	0〜10	ウールローラー・エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※1 夏場(高温下)では、硬化反応が著しく速まるため、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、上塗りとの密着性が悪くなります。その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

注)新設でのPCパネル塗装(PCパネル工場ヤードでの塗装)には、乾燥養生条件や塗装仕様、PCパネルの扱い方、仕上げ方など現場塗装とは異なる注意点、管理方法がありますので、お問い合わせください。

塗装基準

商品名	系統	荷姿	色相	つや	塗り面積/缶あたり/1工程	ポットライフ
アプラウドシェラスターNEO	超高耐候超低汚染水性2液形無機塗料	16kgセット 塗料液14kg、硬化剤2kg	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り	88〜114㎡	4時間以内(30℃) 6時間以内(23℃) 8時間以内(5℃)

施工上の要点・注意事項

- つや消し系の製品では、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- つや消し系の製品では、塗り継ぎや補修でつやムラが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
- 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量を守ってください。
- つや消し系の製品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんし、均一な状態でご使用ください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、塗り板見本を参考に試し塗りをしてください。
- つや調整品は、塗料液が分離しやすいので、よくかくはんしながらご使用ください。・防藻･防かび効果は、繁殖を抑制するものです。既に繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- 状況に応じて、汚染が発生しそうな個所には、クリスタコートを上塗りに塗装することをおすすめします。
- 塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 塗装後２４時間以内など乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生する恐れがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によって濡れ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- スプレーノズルの先端は、時々水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行なってください。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ１液浸透シーラー、ファイン浸透シーラーをご使用ください。
- 塗替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤形シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
- シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ＡＬＣ、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階で既に旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- 素地表面のアルカリ度はｐＨ１０以下、表面含水率は１０％以下（ケット科学社製ＣＨ－２型で測定した場合）、または５％以下（ケット科学社製Ｈｉ５００シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ＡＬＣ面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペセメントフィラー、ニッペフィラー２００）などで処理してください。（合成樹脂エマルションパテの使用は避けてください。）
- 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- 素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- 新設の押出成形セメント板、ＧＲＣ板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ一液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 塗装場所の気温が５℃以下、湿度８５％以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
- 調色には必ず専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。
- 大型壁面塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りは出来る限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の塗装条件を同一にしてください。
- ローラー、ハケなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、ハジキなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- 使用前に内容物が均等になるようにかくはんし、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、製品安全データシート（ＭＳＤＳ）をご参照ください。

安全衛生上の注意事項（アプラウドシェラスターＮＥＯ 塗料液／硬化剤）

横倒禁止

- 本来の用途以外に使用しないでください
- 使用前に取扱説明書を理解して、取り扱ってください。
- 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
- 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 適切な保護手袋／ 防毒マスクまたは防塵マスク／ 保護眼鏡／ 保護面／ 保護衣を着用してください。
- 必要に応じて個人用保護具を使用してください。
- 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡してください。口をすすいでください。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／ 手当てを受けてください。
- 取り扱った後、手を洗ってください。
- 粉塵、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった時には、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 暴露した時、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- 塗料液が容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。
- 硬化剤が容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
- 施錠して子供の手の届かないところに保管してください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 塗料等の缶の積み重ねは３段までとしてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も５０℃ 以上(スプレー缶の場合は４０℃ 以上) の温度に暴露しないでください。
- 内容物/ 容器を廃棄する時には、国／ 地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄するときには、産業廃棄物として処理してください。
- 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

＊上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
■詳細な内容、表示例以外の商品については、製品安全データシート（MSDS）をご参照ください。
■本商品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危険	危険有害性情報
	・強い眼刺激 ・発がんのおそれの疑い ・生殖能力または胎児への悪影響のおそれ ・水生生物に有害(急性) ・長期的影響により水生生物に有害

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

日本ペイント株式会社

お客さまセンター
☎ 03-3740-1120
☎ 06-6455-9113
http://www.nipponpaint.co.jp/

●当社は2013年7月現在、ISO14001を全事業所で認証取得。●このカタログは再生紙を使用しています。

カタログNo.
NP-R088
BW130707T
2013年07月現在